

## チャレンジ！！オープンガバナンス2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	地域コミュニティの活性化 ～自治会のリ・デザイン～	茂原市
アイデア名 (注2) (公開)	「ラジ体GO！」から始まる「自治会Reデザイン」！		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	シビックテックもばら	
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. □ □ □ □ □ □ <input type="radio"/> 2. □ □ □ □ □ □ <input checked="" type="radio"/> 3. □ □ □ □ □ □ □ □    市民／学生の混成	
メンバー数 (公開)	10名	
代表者情報	氏名 (公開)	齋藤 麻由美

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

- 応募の際は、ファイル名をCOG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院のCOG2018サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。  
admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズのCC BY (表示) 4.0国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除きCOG事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

地域コミュニティの活性化～自治会のリ・デザイン～  
若者の自治会離れと地域の担い手不足

<解決アイデアの内容>

### 「ラジ体GO！」から始まる「自治会Reデザイン」！

プロローグ：

ミンミンミンミン…。この季節だけの目覚まし時計、蝉の声に目を覚ます。

「今日もゆっくり寝てしまったなあ。」、そう思いながら、1階のリビングへ下りると、ジャージ姿の母がどこかへ出かける準備をしているところだった。「どこに行くの？」と尋ねる私に、「お宮（神社）のお掃除に行くの～」と母は答える。「神社…」これまで気にも留めなかった『神社』という単語が、その時はなぜだか気になった。そして私は、母と一緒に神社へ行き、その違和感の正体を確かめてみることにした。会社を退職する直前、有給休暇を消化するため、実家のある茂原市に引っ越してきて3日目のことだった。

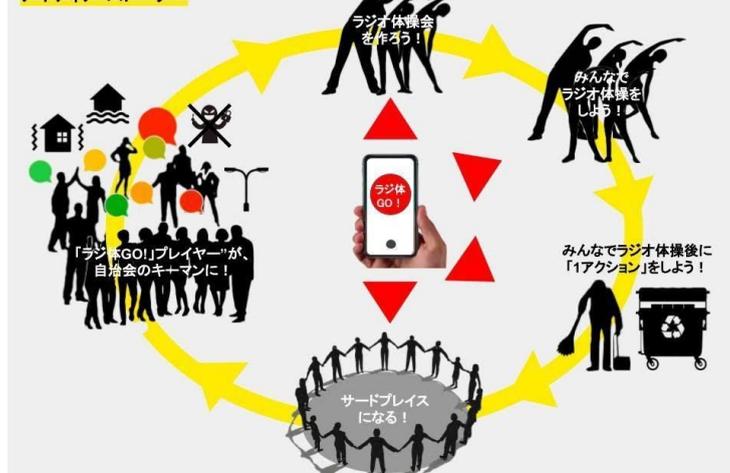
神社へ行くと、近所のおじいちゃんおばあちゃんが、「あら～！麻由美ちゃんキレイになったわねえ～！」とみんなが声をかけてくれた。その1人1人とお話をする度に、「○○さん、歳をとったなあ～」「若い人は1人もいないなあ～」と思った。「子どもの頃は、この神社で盆踊りをしたり、お神輿を担いだり、かくれんぼをしたり、夏休みにラジオ体操をしたよなあ～。今じゃすべてなくなり、人も寄りつかないのだろうか。寂しいな～。ん！？ラジオ体操！久しぶりにやりたいな～！今日もゆっくり寝ちゃったし、早起き習慣・運動不足解消にピッタリだな！そして、あと1週間後にはこの神社に子ども会の子も達が来たりして！そもそも、子ども会はまだあるのかな？よし！明日から始めよう！地元で1つ日本の風物詩を残すぞ！」と決め、幼馴染のみーちゃんファミリーを誘って、#お宮(神社)でラジオ体操を始めた。

それから毎日各所（千葉・東京・山梨・アメリカ）でラジオ体操をして、神社の前で同じポーズで写真を撮って、SNSにアップすると、友達が面白がって一緒にラジオ体操をしに集まってくれた。そう、地元の子供会も人数は10人以下になれど存続していて、その時出会った小学生の親子三世代と夏休みが終わってもラジオ体操を続けてきた。彼女らの子ども頃の原体験を作れていると思うと、それだけで嬉しかった。

この活動も100回目を迎えた頃、そのことを市民活動団体「シビックテックもばら」のメンバーに何気なく話すと、思わぬ反応が返ってきた！「面白いね！もしかしたら、この#お宮でラジオ体操が、今の自治会・地域活動を変えるんじゃない？」「例えばさ…」とホワイトボードにアイデアを書き出してくれたことを今でも覚えている。ワクワクが止まらなかった。その後、メンバーと話し合いを重ね、自治会長へのインタビューやデータ収集および分析を行い、プロトタイプテスト・ブラッシュアップをして完成したものが、このプロジェクトアイデアだ！

### 「ラジ体GO！」から始まる「自治会Reデザイン」！

アイデア・ストーリー



## 0.アプリ「ラジ体GO!」の開発(まさに起爆・促進剤!このアプリが人をつなげ、地域活動が活発化する!)

「ラジ体GO!」は、「ラジオ体操+地域活動1アクション」をサポートするゲーム(感覚)アプリだ。この「GO!」には、単に「ポケモンGO!」をオマージュしただけではない、仕掛けと思いが込められている。このアプリで、ラジオ体操をみんなで行うと、ラジ体キャラクターの「ラジタイガー」がどんどんパワーアップしていき、強くなった「ラジタイガー」が「モンスター」を倒していくかのごとく、地域課題(=もばモンスター)にみんなで力を合わせて取り組んでいくことがゲーム感覚で楽しくできるというものである。

アプリ「ラジ体GO!」の機能は、ここでは語り切れないため、(3) **アイデア実現までの流れ**でまとめて紹介いたします!



## 1.ラジオ体操会の発足(あくまで有志!1人の思いからゆるいつながりを生んでいく!)

ラジオ体操会は、茂原市もバックアップしてくれる市公認活動であるが、発足はあくまでも、有志の人々に託すことにする。これは、「やらされる」ことではなく、1人の思いから生まれる人とのつながりであり、コミュニケーションであり、1つの活動・ムーブメントだ!もちろん始めるきっかけにもなり得るアプリ「ラジ体GO!」の存在も忘れてはいけない。

## 2.みんなで「ラジオ体操!」

①地域活動の拠り所となっている近所の公園・神社・集会所に集まろう!②円になって、ラジオ体操をしよう!③アプリ「ラジ体GO!」を開いて、ラジ体キャラクターの「ラジタイガー」を「ラジオ体操1回・1人につき1P」でパワーアップさせよう!④「ラジ体ポーズ」でみんなで写真を撮って、アプリ「ラジ体GO!」とSNSに投稿しよう!⑤ラジオ体操後に、縁起のよい茂原市付近に古くから伝わる「茂原締め:シャンシャンシャン、シャシャシャンシャン、シャン(8回拍子)」をしよう!



## 3.みんなでラジオ体操後に「1アクション!」

アプリ「ラジ体GO!」内で、「ラジタイガー」をパワーアップさせることでラジ体マップに出現する「もばモンスター」=地域課題」をラジ体体操会帰りに、倒しに行こう!

例)ラジタイガーLev.01~10:「ゴミモン」出現!ラジオ体操の帰り道にゴミステーションに寄り、散らかっていたら、掃除しよう!キレイになったら、【「ゴミモン」退治完了!】ボタンを押す!

ラジタイガーLev.11~20:「ユウグモン」出現!みんなで公園の遊具を点検しに行こう!点検し終わったら、【「ユウグモン」退治完了!】ボタンを押す!

ラジタイガーLev.21~30:「もばモンスター」を出現させよう!帰り道に危険箇所や改善したほうがよいことなどの地域課題を「もばモンスター」として出現させよう!

## 4.ラジオ体操会のサードプレイス化

ラジオ体操会で、顔を合わせていることで、子どもからお年寄りまで、幅広い世代の人たちが顔見知りになり、(仮に自治会に入っていなかったとしても)地域に居場所ができる。また、災害などのいざというときに助け合うことができるようになる。

## 5.「ラジ体GO!」プレイヤーが、自治会のキーマンに!

「ラジ体GO!」を通して、地域課題に実際に取り組み、地域活動に興味を持った「ラジ体GO!プレイヤー」が、地元の自治会の一員として、地域活動を担うようになる。

その後、活性化した自治会で「ラジオ体操会」を発足させるようになれば、この活動「ラジ体GO!」が指数倍に循環していくようになる!

## 大切なのは、継続すること!

みなさんも子どもの頃夏休みに、プレゼント欲しさにラジオ体操カードを首から提げて、朝ラジオ体操に行きましたよね!そういうことです!継続には、ちょっとした工夫が必要なんです!

## 継続の仕組み:

・ラジタイガーのパワーアップ&モンスター退治でプレゼントゲット!(団体戦)(ラジ体グッズや地域のお店クーポンがゲットできる。これで同時に地域活性化もでき一石二鳥!)

・個人のラジオ体操は、「ラジ体GO!」と連携させた既存アプリ「LINE@」でスタンプを貯めていき、プレゼントゲット!(個人戦)

(もちろんアナログに、紙のラジオ体操カードを発行しても可。子どもやシニア世代にはこちらのほうがよいかも!)

## その他の効能

・ラジオ体操をすることで、**みんなで健康になれる!**茂原市が勧める「1市民1スポーツ」も達成でき、身体を動かす習慣が身につく!

・「ラジ体GO!」で、自分達と同じポーズで撮った他の地域のラジオ体操写真や地域活動の様子が見られるため、茂原市全体の一体感を感じることができる。情報シェアの場所として機能させることができる。このように、この活動・アプリがモンスター化し、大きな広がりを見せることで、茂原市のムーブメントとなり、ひいては他の市町村もマネしたくなる活動となる。

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

**課題のまとめ**

**なぜ？(現状)**

- ・ライフスタイルの変化
- ・核家族化

**そもそも自治会って何？**

- ・住民の自主的団体
- ・会費は構成員が負担

公開データ：  
<http://www.city.mobara.chiba.jp/0900000393.html>

**課題**

若者の自治会離れ  
地域の担い手不足

自治会の役割  
(1)コミュニケーションを認める  
(2)明るく住みよい地域づくり  
(3)助け合いの精神と実践

**将来どうなるの？**

85% 1,000棟 1,000件

※1:今年30年間のうちに築設6以上の建物が全国で発生する確率  
※2:漂着物の過去の被害で保土・床下浸水被害に遭った家屋数  
※3:漂着物内の年間総処理件数

**結論**

地域の絆づくり、安全・安心な地域づくりが必要だね！

**課題解決**

地域の絆づくり、地域運営のあり方・方法をRe-デザインし、地域のくらしをより良くしよう！

### 1.なぜ自治会Reデザインに「ラジオ体操」なのか？

・朝のたった10分間なので、会社員でも学生でも毎日参加できる。

データ：ラジオ体操第1・第2 放送時間 6:30～6:40（毎日）

出典：NHKオンライン

・今年90周年を迎えるラジオ体操は、世代を問わず多くの人が子どもの頃、夏休みにみんなでラジオ体操したという懐かしい思い出とともに、「**できる**」という意識を持っている。

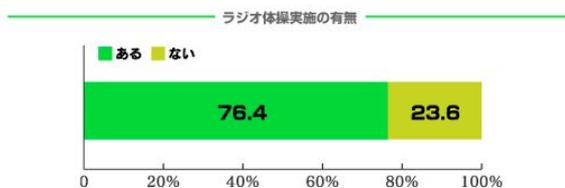
データ：

①年間全国ラジオ体操実施人数 2,800 万人（夏休み期間中）

出典：株式会社 日本総合研究所「健康体操としてのラジオ体操の特徴に関する調査研究報告書（概要）」

[https://www.fpp.or.jp/radio\\_taiso/pdf/h28\\_chousa.pdf](https://www.fpp.or.jp/radio_taiso/pdf/h28_chousa.pdf)

### ②全国の小学校におけるラジオ体操実施率



出典：全国ラジオ体操連盟ウェブサイト

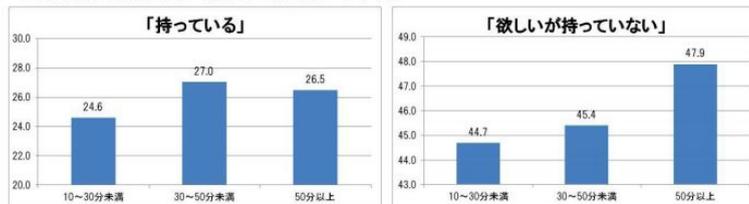
<https://www.raijo-taiso.jp>

・毎日顔を合わせていると、自然と**絆が生まれ**、「**〇〇さん、今日も元気だ!**」と確認できる。

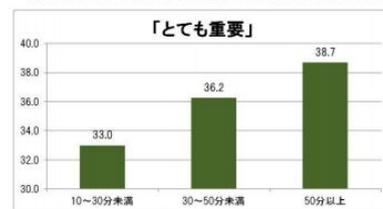
・みんなで**シンクロ**して体操することで、**一体感**を感じることができる。

・この絆や一体感が、〇〇会というただの組織ではない**サードプレイス化**したチームとなり、様々な活動や助け合いを生んでいく。現役をリタイアしたばかりのアクティブシニア（社会の第一線から退いた）世代の孤立化も防げる。  
データ：サードプレイスを持っている人は**4人に1人**。通勤時間が長い人ほどサードプレイスを「重要」と捉えている。

Q. あなたは家でも職場でもない「自分だけの場所」を持っていますか。



Q. あなたにとって「自分だけの場所」の重要と感じる度合いをお知らせください。



出典：読売広告社「サードプレイスへの意識と利用目的。」

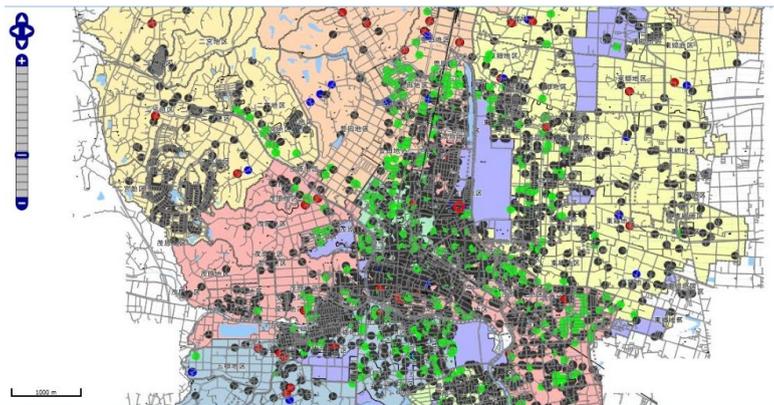
[http://www.yomiko.co.jp/news/item/old/pdf/20141201\\_1.pdf](http://www.yomiko.co.jp/news/item/old/pdf/20141201_1.pdf)

## 2.なぜ「1アクション」の第1歩が「ゴミステーションの清掃」であり、「モンスター化」するのか？

・ 小さな「できた！」という成功体験の積み重ねが大きな活動へと繋がっていく。ラジオ体操の帰り道ついでにできることをコンセプトに 身近でかつ短時間でできるということが重要である。

・ ゴミステーションは多くの人が 日頃から利用しているものであり、多くの地域が 自治会によって管理されている。その場所にみんなで実際に行って、観察し、掃除をする。これを第1歩とし、気づきと改善に発展させていく。

データ：



・ モンスター（＝地域課題）をゲームを通して出現させることで、地方自治体がモンスターを出現させていても 「やらされ感」がなく、自分達でモンスターを出現させることもできるので、楽しんで地域活動に取り組むことができる。

## 3.なぜ「ラジ体GO!」のプレイヤーが自治会の一員となり、自治会をReデザインできるようになるのか？

・ 「ラジ体GO!」は、人々の協力なしでは進めることのできない「ゲーム」です。

・ 参加者はモンスターという形で、身近にある地域課題の存在を知り、ゲームの進行を通じて自治会の活動を疑似体験します。特定の時期にだけ現れるモンスターや、出現場所に法則性のあるモンスターなど、地域課題と同様に、その種類や特徴は様々です。そして、いくら倒してもキリがないモンスターや、倒すのに時間のかかるモンスターなど、一人だけでは倒すことのできない強力なモンスターと戦う中で、やがて参加者は 共助の必要性に気づきます。

・ 若者が地域活動に興味を持ち、「自治会って何だか面倒くさそう」という先入観を壊していく。そして、「自分達の手でできた！」という体験から地域活動内容を棚卸しし、「これからも自分達の手でやっていくかどうか」自分事化して考え、活動仕分けをしていく。住民がそれぞれの地域に必要な活動に気づき、自ら自治会のあり方や活動内容をReデザインしていく力、チームワークが自然と身につく。そのきっかけを「ラジ体GO!」は与えるのです。

地域活動サポートにも携わる「茂原市木崎西部自治会長：河野さん」へのインタビューの様子



大切なのは、「絆（Mind Set）」＋「みんなで小さな1アクション（Action）」である！

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

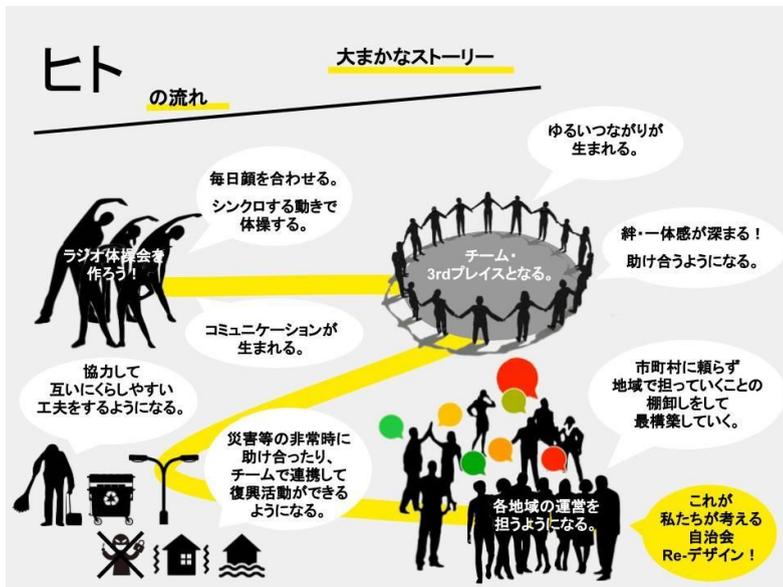
アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

#### ■ ヒト

##### 【市民】

（人数が少なくても、負担なく始められることがメリット。基本毎日朝。場所の使用申請が必要な場合は自治体の管理部署へ。アプリでサポートしたい。）

- ①自治会ラジオ体操会発起人（有志1人）＋サポート役（有志1人）
- ②ラジオ体操参加者（ゆるく増加していく！）夏に向けて夏休みキャンペーン実施！
- ③みんなでラジ体終了後＋1アクションGO！（清掃等自治会業務のお手伝い）
- ④ラジ体プレイヤーが経験値を得て育つ LV.UP!
- ⑤顔の見える自治会ネクストプレイヤーがキーマンになりサイクルを継続。以下同。



##### 【アプリ：ラジ体GO！製作者・管理者】

（ここがどの程度のクオリティーかによってかかる時間が異なる。ラジ体プレイヤーも開発に参加）

- ・エンジニア
- ・デザイナー
- ・コーダー

##### 【自治体職員】

- ・オープンデータ担当
- ・ラジオ体操マップなど、ラジオ体操の担当
- ・自治会担当
- ・マイナンバーカードとの連携担当

#### ■ モノ

- ・場所、空間（神社、広場、公園、屋内運動場など）
- ・ラジオ（電源、電池）
- ・ラジオ体操アプリ「ラジ体GO！」（場所検索、ポイント管理、バトル経験値管理機能付）
- ・モバイル端末（スマートフォン、タブレットなど）
- ・「ラジ体GO！」インスタフレーム（フェイスブックなど）
- ・カメラ（カメラ機能のあるモバイル端末）
- ・清掃用具（ほうき、ちり取り、ゴミ袋等）

## ■ カネ

- ・ラジオの代金（可能なら自治体側で調達、配布）
- ・アプリ開発費用（アプリの広告収入、属性データ販売など）
- ・アプリ使用モバイル端末代、通信費（ラジ体GO！参加者負担）
- ・上記光熱水費（ラジ体GO！参加者負担）